

学校関係者評価報告書

第4回評価会議 平成29年4月18日（火） 16:00～

NO	内外	氏名	所属	備考
1	外部	本林 久美	特別養護老人ホームやまびこの里	施設長
2	外部	伊坪 和保	介護老人保健施設のむぎ	事務長
3	外部	岡江 真一	信州大学病院 医療支援課	課長補佐
4	外部	北原 宏樹	松南病院	ソーシャルワーカー、当校卒業生
5	内部	清水 強	学校法人未来学舎 松本医療福祉専門学校	校長
6	内部	百瀬 由久	学校法人未来学舎 松本医療福祉専門学校	副校長

会議内容

- ① 委員紹介
- ② 学習成果概要説明、質疑、意見
- ③ 学校評価概要説明、質疑、意見
- ④ その他
- ⑤ 学校長挨拶

各評価委員からの意見・指導等

本林 久美 委員

- ・ 巡回担当の教員が巡回頻度や時間を増やして、施設との関係づくりや連携をさらに進めて行くことにより、その効果を学生に還元できるのではないかと考える。
- ・ 卒業生の卒業後の学習機会や情報交換の場として介護福祉士会が活用できる点を積極的に情報提供してはどうか。
- ・ 利用者さんにどのような生活をしてほしいかなど、利用者さんの生活に今以上に思いを巡らせてもらえればと考える。

伊坪 和保 委員

- ・ 養成校出身者の良い点を高校生などに向けて積極的にPRしてはどうか。
- ・ 現場でも職員を育てることに十二分に気を使っている。養成校と施設で今以上に連携して若い力を育てていくことができればと考える。

岡江 真一 委員

- ・ 病院への大学生や専門学校生のボランティアの申込みが増えている。実習だけでなく、そういう形で現場の風に触れ、学習へ役立てることも必要ではないか。
- ・ 就職において、はじめに医師事務作業補助者として経験を重ねステップアップしていくというの考えてみてもよいのではないか
- ・ 過去に医療事務職等の経験のある主婦の方が現場に復帰できるようなフォロー体制を専門学校でも実施してみてはどうか。
- ・ 長く働く際に重要となる、社会で働くための軸づくりのための教育について検討してみてもよいのではないか。
- ・ 社会の変化により、学生の気質も変化してきている。現場でもその点を考慮して指導している。実習の際には、その点についても現場と学校での連携を図ってみても良いのではないか。
- ・ 医療費の算定等、学習レベルとしては十分にできている。しかし、実践レベルとしてはイメージの不足を感じることもあるので、その点教育についても検討してみてもどうか。

北原 宏樹 委員

- ・ 介護福祉学科を持つ学校間での学生の確保の問題だけでなく、少子化による医療福祉業界内での学生の確保ということも問題ではないか、他校との協力も考慮し、介護の魅力伝えていったらどうか
- ・ 就職後間もなく、就職先を辞めると、転職しても続かないことが多い。直近3～5年の卒業生の動向調査や、フォロー体制などを、同窓会の力を借りるなどして実施してみてはどうか。
- ・ 学生や学校も時間がとりづらいところもあるとは思いますが、ボランティアを推奨するなどしてこれからのまちづくりなどに学生の若い力を導入できるような体制づくりについて考えてみてはどうか
- ・ 実践力は現場で育てて行けるので、技術・知識と同等以上に倫理的なところを学校でしっかり教育する機会を設けてほしい。
- ・ 総合的なコミュニケーション能力を育ててほしい。